

# 常任委員会政務調査報告

## 総務民生常任委員会

視察日 8月1日

調査事項(1)気象予報システム  
視察先 札幌管区気象台

朝のあいさつの一部にもなっている天気について、札幌市内にある札幌管区気象台を視察した。札幌管区気象台の業務については、「気象の観測、監視、予測」、「地震、津波、火山の監視」、「地球環境の監視」、「航空機や船舶運航のための気象情報」、「台風や大雨に対する情報提供」など多岐の業務が24時間体制で行われていた。気象庁の組織としては、明治8年に発足し、5つの管区気象台と沖縄気象台、その下に47の地方気象台、航空地方気象台と海洋気象台が4か所ずつ、その他に測候所が8か所あり、気象庁全体では全国約5400名の職員と約700億円の予算で運営される。今年5月頃の北海道地方の長期予報は、当初、エルニーニョの発生により冷夏となっていたが、予想が外れ

日照時間が長く気温も高くなつたとのこと。おかげで今年も豊穡の秋を迎えることが出来た。予想が外れる場合もあるとはいえ、本町のように基幹産業が農業である町では、日々の天気予報が生活に直結し、その情報は欠かすことのない大切な経済情報でもある。農業者のみならず、今年のイベントのように全て雨に祟られると、天候の良し悪しで楽しみが半減したり倍増したりということにもなる。最近では、広島市の豪雨による土砂崩れ被害など異常気象による災害も多く、今後ますます気象予測の精度向上への期待が高まる。

調査事項(2)協働事業について  
視察先 千歳市

千歳市の特徴として、世界一、日本一、北海道一と3つのナンバー1がある。世界一は、新千歳空港での乗降者数。日本一は、自衛隊の規模と隊員数で、約9000人余りの自衛隊員が勤務し、千歳市人口9万5千人の内、実に自衛隊関係者が約3万人を占めるといわれる。北海道一は、平均年齢が道内の市町村で最も若く、これは自衛隊員の数と密接に関わっている。

協働事業には、市民提案型と市提案型の2つがある。市民提案型は、市民団体が発案した協働事業に、書類選考と公開プレゼンの審査を経て、最高100万円までの補助金を出す。これまで子育て、スポーツ、観光特産品関係などの事業が行われた。市提案型は、市が提案した協働事業を市民活動団体や事業所に公開募集するシステムで、平成27年からの実施を予定している。内容は、市が行うイベントや啓発活動、教育、福祉、観光事業などで、その補助金について上限はない。町内会



札幌管区気象台

単位を協働事業の主体としている本町と比較し、規模や内容の違いは大きい。協働事業のマニュアルの一つとして参考になるのでは、との思いで研修を終えた。

## 経済文教常任委員会

視察日 7月30日

調査事項(1)生薬の生産状況と今後の取組みについて  
視察先 株夕張ツムラ

道内27ヘクタールの自社農場のほか契約農家からも原料を調達して粗加工し、保管、そして最終加工を手掛ける本州の工場に送っている。国内での安定した供給体制を整えるため、北海道における生薬の増産を目標とし、夕張を道内の生薬生産拠点にしたいとのことである。また、滝川市東滝川の道立畜産試験場跡地、約150ヘクタールを道から借り受け、薬用作物の栽培を始める予定である。

調査事項(2)小中一貫教育の取組みについて

視察先 三笠市教育委員会

中学校に進学し、学習面でのつまづきや教科担任制への戸惑いなどにより、新しい学習環境や生活環境に馴染めず不登校など諸問題につながっている。この「中一ギャップ」を解消しようと、義務教育の9年間を連続したものと捉え、緩やかに移行できるように取り組まれているのが小中一貫教育である。

三笠市では、平成17年度から小中9年間を2・3・4年制に区分して、新たな3教科を



夕張ツムラ

夕張ツムラは、東京に本社を置く大手漢方薬メーカーツムラの100%子会社で、2009年7月夕張市に設立された。同年10月には自社農場として市内でセンキュウ栽培を開始、翌年11月には、生薬加工場、保管倉庫を建設。